

参考資料

分類名〔病害虫〕

参 9	水稲乾田直播におけるいもち病、紋枯病防除
-----	----------------------

宮城県古川農業試験場

要約

水稲乾田直播栽培において、いもち病を対象とした種子塗抹剤、水面施用剤、紋枯病を対象とした種子塗抹剤は、十分な効果が得られる。

普及対象：水稲を栽培する生産者（68,000ha程度）
普及想定地域：県内全域

1 取り上げた理由

近年、大区画ほ場を中心に水稲乾田直播栽培が普及しつつあるなかで、病害防除剤の効果を確めた事例は少ない。今回、いもち病、紋枯病防除剤の効果を確めたので参考資料とする。

2 参考資料

- (1) 水稲乾田直播栽培におけるいもち病を対象とした種子塗抹剤と水面施用剤は、いずれも高い効果が認められ、種子塗抹剤は効果が持続される（図1、2）。
- (2) 紋枯病を対象とした種子塗抹剤も高い効果が認められる（図3）。

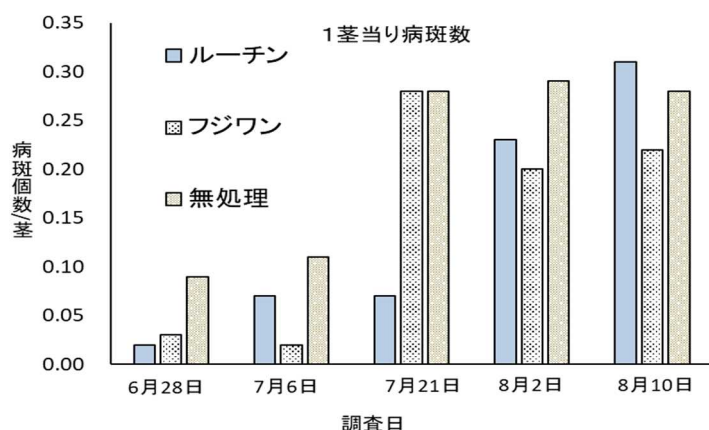


図1 処理別の1茎当たり葉いもち病斑個数（令和4年）

3 利活用の留意点

- (1) 本試験は令和4年に古川農試場内で実施。3月23日に化学農薬（イプロナゾール・銅水和剤：商品名テクリードCフロアブル、200倍、24時間浸漬）処理後、3月25日に種子塗抹処理を行った。乾田直播は、「ひとめぼれ」を播種（5kg/10a、4月7日）した。
- (2) 使用した薬剤は種子塗抹処理いもち剤（イソチアニル水和剤：商品名ルーチンシードFS、乾燥種籾1kg当り原液10mlを塗抹処理）、水面施用いもち剤（イソプロチオラン粉粒剤：商品名フジワンパック、小包装（パック）15個/10a）、種子塗抹紋枯剤（ペンフルフェン水和剤：商品名エバーゴルシードFS、乾燥種籾1kg当り原液10mlを塗抹処理）。
- (3) いもち病は発生を促進させるため6月15日伝染源設置、紋枯病も発生を促進させるため伝染源を6月30日に散布した。いもちと紋枯病は7～9月にかけて発病程度を随時観察した。
- (4) 水面施用いもち剤はいもち病の伝染源設置前（6月8日）に施用した。
- (5) 本試験はいもち病、紋枯病とも少発生の条件下で行われた試験である。
- (6) ルーチンシードFSとエバーゴルシードFSは同時処理が可能である。（使用例：ルーチンシードFS乾燥種籾1kg当り原液8ml＋エバーゴルシードFS乾燥種籾1kg当り原液10ml塗抹処理）

（問い合わせ先：宮城県古川農業試験場作物環境部 電話0229-26-5107）

4 背景となった主要な試験研究の概要

(1) 研究課題名及び研究期間

乾田直播のいもち病防除体系の確立（令和元年～4年、県単）

(2) 参考データ

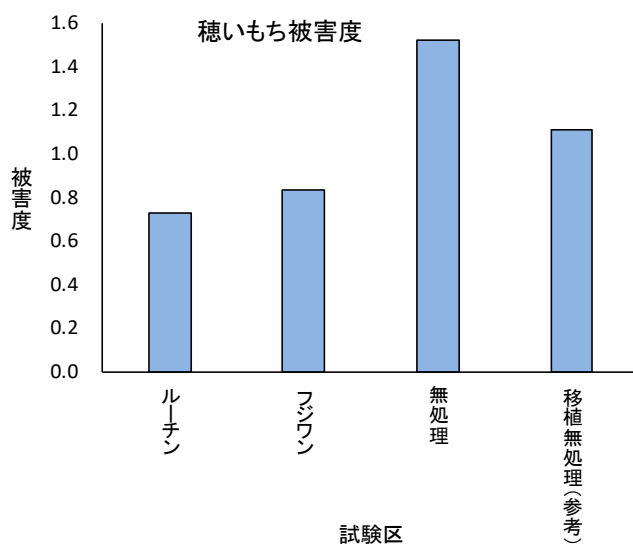


図2 処理別の穂いもち被害度（令和4年）

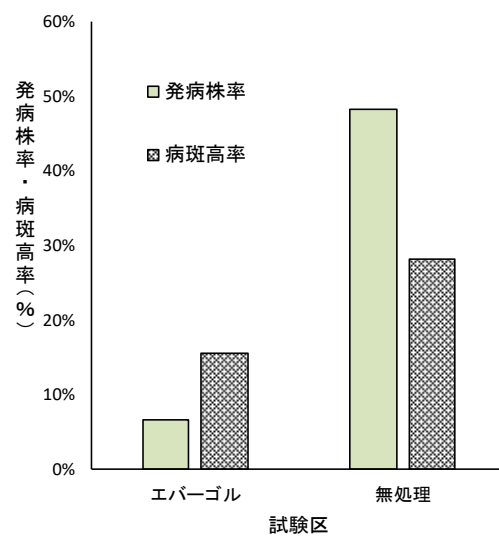


図3 処理別の紋枯病発病株率、病斑高率（令和4年）

表1 登録農薬情報（令和4年2月1日現在）

ルーチンシードFS

作物名	適用病害虫名	希釈倍数・使用量	使用時期	本剤の使用回数
稲	いもち病	乾燥種もみ1kg当り 原液6～12ml（原液 71mL/10aまで）	は種前（浸種前）	1回

フジワンバック

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数
稲	いもち病	小包装（バック） 10～15個 （750～1125g） /10a	葉いもちに対しては 初発7～10日前 穂いもちに対しては 出穂10～30日前 （但し、収穫14日前まで）	2回

エバーゴルシードFS

作物名	適用病害虫名	希釈倍数・使用量	使用時期	本剤の使用回数
乾田直播栽培	紋枯病	乾燥種もみ1kg当り 原液5～10ml（原液 44mL/10aまで）	は種前（浸種前）	1回

(3) 発表論文等

- イ 関連する普及に移す技術
- ロ その他
- なし

(4) 共同研究機関

なし